

障害児子育て対談

双子の障害児を育てる

都議会議員

安中知恵 × 原のり子



2人の障害児を育てる清瀬市の安中知恵さんと原のり子都議が語り合いました。

自然体がステキ

安中 子どもは8歳なんですけれども、双子で障害児です。娘がダウン症、息子は自閉症と軽度の知的障害があります。

原 それぞれ違う障害をお持ちのお子さんを育てながら自然体で生活していらっしゃる。そこがステキだなとも思っています。

安中 産んだころは不安で、「私、育てる自信がありません」って看護師さんに相談したこともあります。

原 そうですか。

安中 娘は心臓にも障害があって、生後3カ月で手術したんです。息子を預かってほしくて保育園を探したら、ほとんどの園に断られました。このときは「私が悪いの?」と心が折れました。

苦労も多いけれど

原 双子の障害児は制度の中で想定されていないために、苦労が多いですね。

安中 板橋区に住んでいたときに、「障害児が入りやすい保育園にしてほしい」という陳情を出したりしました。

原 一つひとつ切り開いていますよね。そこがすごい。

予防歯科 1回2000円が200円に

原 子どもの医療費が18歳まで無料になりました。いかがですか。

安中 以前は、小児医療の所得制限にひっかって3割負担に

なっていたのですが、18歳まで所得制限なしになったのは大きいです。障害児にとって病院は常に必要なので。

原 そうですね。

安中 子どもたちは3カ月に1回、予防歯科に行きます。重症化してから行ったのでは本人の負担も大きいですから。昨年10月から1回2000円が200円になりました。これはもう全然違う。

原 それはよかったです。でも、その200円が多摩格差による一部負担金ですね。23区にはない。都の財政支援で多摩地域でも完全無料化を一日も早く実現したいです。

医療費の負担軽減を進めたい

原 障害者医療費の助成を拡充することも緊急の課題だと思っています。障害が重度の人は無料ですが、中度・軽度の人は3割負担になってしまふ。助成を拡充してすべての障害者の医療費負担を軽減したいんです。

安中 それは切実です。息子は3割負担になるから出費が大きい。

原 拡充を求める運動が10年ほど前から続いてきて、陳情が都議会で全会一致の継続審査になっています。反対する会派はないんです。他の道府県では対象を広げているところもあるのに、東京都は広げない。この壁を突破したい。

安中 私も運動します。給食費も無償化が実現しました。「給食

費を払っているのに食べなかったの」みたいになると、親も余裕がなくなりますよね。そういう精神的な面でも助かっています。声を上げていくって大事ですよね。

放デイの負担を軽く

安中 娘も息子も、清瀬市内で放課後等デイサービス（障害児の学童保育）を利用しています。毎日楽しく過ごしていて、信頼している施設です。でも費用がかかります。うちは、週5日行つて月3万7200円。

原 国の制度なので、国にものを言っていく。同時に負担が重いことに対して東京都として手立てをとるようすすめたいです。

原さんの考え方 大好きです

安中 小池知事のやり方は、だれだれに何かをしてあげますっていう感じなんですよね。そうではない人は損をするみたいな議論に感じます。でも原さんは違う。そこを変えることによって世の中はこんなふうによくなりますよっておっしゃる。生活の視点から世の中全体をよくしようとしている。そこが大好きです。

原 わあ、ありがとうございます。がんばります。